みんなにやさしいホームページ

【物語編】

■リビング

3人がリビングPCで作業している
佳乃「亮！　ホームページ順調にすすんでる？」

亮、自信満々な表情
亮「なかなか良い感じだよ！見てみてよ！」

佳乃「どれどれー。」

春菜と佳乃がPCを見にいく
亮、自信満々な表情
亮「ページを見やすいように、特に赤と緑の使い方には気を使ったね。」

PC画面

春菜「どうして赤と緑なの？」

佳乃「赤と緑の区別がつかない視覚障害者に対応したってことよね！　大事なことね。でも、気をつけるのは配色だけじゃないわよ。」

亮「他にもあったっけ？」

佳乃「Webページだったら、細かい字が見にくい時に、表示する文字の大きさを変えたりするでしょ？」

亮「そう、表示する文字の大きさを変えたら、レイアウトが崩れて見にくくなることがあるから、そうならないようにWebページを設計する必要がありそうだね。」

春菜「私も手伝うね。」

春菜、少し困った表情

春菜「私の友達に視覚障害の人がいるんだけど、その友達がWeb画面上で音声読み上げソフトを使ったのね。そしたら「ボタン」って読み上げられるだけで困ったことがあったって言ってたの。」

亮「じゃあ「寄付」とか「子ども食堂について」といった見出しのボタンにも、読み上げ用の代替テキスト情報を書いたほうがいいね。ってことは、動画も見えないだろうから、動画にも読み上げ用の字幕情報をいれたほうがいいね。」

春菜「それだけじゃないのよ。見出しだけじゃなく画像にも読み上げ用の代替テキストを入れておかないと、画像のファイル名を読み上げてしまうソフトもあるみたい。あとページごとにタイトルを変えた方が良いそうよ。」
亮「なるほど。友達のWebページを参考にして作ったから、そんな情報が必要とは知らなかった。」

【解説編】

■リビング

天の声「皆さん頑張っていますね。いろいろな人にWebページを見てもらうためには、見やすくする必要があります。
誰にでも見やすいかどうかをアクセシビリティ」といいます。アクセシビリティの基準がちゃんと決められていて、それにどのぐらい従っているかをチェックするためのWebサイトやチェックするツールがありますから一度使ってみてください。
皆さんは、色覚障がいの人や目の見えない人のことを考えていましたね。赤と緑の区別がつきにくい人は男性の1割ぐらいいると言われています。その人たちには、赤と緑のところがこんな風に見えてしまいます。
強調したいときは、色の区別に頼らず、このように明るさに差をつけると良いと言われています。
視覚のことだけではありません。マウス操作がしにくい障がいを持った人もいますから、Webページでの操作をすべてキーボードでできるように配慮することが必要な場合もあります。Webページだけではなく、プレゼンテーションや配布資料についても気を配ったほうが良いと思います。」

亮「たしかに、普通に目の見える人でも、プレゼンテーションスライドで見にくいものがあるって聞いたことがあるよ。」

佳乃「それってたぶん、明朝体のフォントを使っているからじゃないかな。教科書でよく使われているフォント。」

春菜「たしかに文字の横幅が縦よりも細くて見づらいときがあるよね。ゴシック体だと太いから大丈夫だね。」

天の声「ゴシック体は幅が一定です。幅が細いものもあるので、常に幅が太いというわけではありません。紙で配布する資料の文字フォントについても、気を配ったほうがいいです。文字がゆがんで見えるという人もいることを意識しましょう。」

春菜、首を傾げながら
春菜「文字がゆがむってどういうことですか？」

天の声「どのように見えるかお見せしますね。」
スライド表示

天の声「ディスレクシアといって、文字が見にくくて文章を読むのにとても苦労している人たちがいます。明朝体の特徴の「ウロコ」が見にくいという人もいます。なので、ユニバーサル・デザインに配慮されたゴシック体などのフォントにする、見やすいフォントサイズにする、行間を充分に空けるなどの工夫が必要です。」

春菜「結構いろいろ考えないといけないですね。」

亮「よし！！　みんなが見やすいWebページをつくるぞ！」